

## 令和5年度第3回柏市教育政策審議会会議録

### 1 開催日時

令和6年3月19日（火）

午前10時から午前12時まで

### 2 開催場所

柏市役所沼南庁舎5階 大会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員

天笠会長，寺本副会長，平野委員，伊藤委員，藤崎委員，遠藤委員，青木委員，入道委員，少路委員，神田委員，坂本委員，古橋委員，阿部委員（計13名）

#### (2) 事務局

田牧教育長，原田教育総務部長，三浦学校教育部長，宮島生涯学習部長，依田学校教育部上席技監，松澤教育総務部次長兼教育政策課長，中村教育総務部次長兼学校給食課長，籠教育総務課長，田村教育政策課副参事，岩本教育政策課主幹，平川教育政策課主事，古谷教育施設課長，大滝教育施設課副参事，糸川教育施設課副主幹，佐藤学校給食センター所長，沖本生涯学習課長，伊藤学校教育課長，染谷学校財務室長，福島教職員課長，中田指導課長，齊藤ICT推進室長，石井児童生徒課長，金岡教育研究所長，幕内市立柏高等学校事務長（計24名）

### 4 教育長あいさつ

### 5 議事（要旨）

「柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針」について

(1) 令和5年度第1回，第2回審議会の振り返り

(2) 市立学校を取り巻く現状及び課題への対応の方向性について

ア 基本方針 構成イメージ

イ 柏市が目指す学校教育

(3) 柏市立小・中学校の教育環境に関するアンケートについて資料に基づき、事務局より説明。

《以下、委員からの意見及びそれに対する事務局から回答》

(1) 令和5年度第1回、第2回審議会の振り返り【資料3】

(天笠会長)

- ・今回で3回目であると確認していただけたと思いますが、この審議会は、全体で9回予定されています。改めてスケジュール感をご確認いただきたいということが1点と、この先は、全体像として提示した予定を進めていくことを受け止めていただければと思います。このスケジュールを示した意味としては、全体の流れが見えなくなりがちですが、審議を重ねていくと、流れを含めて全体が見えてくると思います。そういう意味において、今日の第3回目というのは、これまでを振り返り、この先を見据える審議会になると思いますので、こちらの資料をご覧いただければと思います。今後のスケジュールについてもご意見があれば、この後お願いできればと思います。
- ・資料については、委員の名前も入っておりますので、ご自身の発言もご確認いただければと思います。議事録に沿って整理したのですが、委員として自分の真意はこうだ、ということもあるかもしれませんので、後日お伝えいただいても結構です。第1回、2回は、事務局が整理した資料の説明がメインでありまして、勉強させていただいた回という言い方もできます。そのため、質問が多かったと思います。そのことについては、考え方や内容を深めることができたと思います。その振り返りが、資料3の1、3の2となっています。

(2) 市立学校を取り巻く現状及び課題への対応の方向性について【資料4】

(天笠会長)

- ・本日の議事としては、主に2つあります。1つは、資料4につい

で、もう1つは、アンケートについてです。資料4は多岐にわたるので、議論の順番を提示するとともに時間を区切って進めさせていただきます。まず1つ目は、スライドの6、柏市が目指す子ども像についてご意見をいただきたいと思います。2つ目は、スライドの4、ウェルビーイングのことについてご意見をいただきたいと思います。そこには国の教育振興基本計画が関わってくると思いますし、脈絡の中で柏市教育振興計画をどう考えていくかなどの議論が生まれるかと思います。3つ目は、スライドの8、これからの柏市立学校の授業の在り方についてご意見をいただきたいと思います。4つ目は、スライドの11、学校規模のことになります。第1回目の審議会でも説明がありましたが、これからの変化にも関わる話になると思います。そして、5つ目がスライドの14以下、小中一貫教育についてです。以上、5つの観点について順次進めていきたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。もちろんその他のことについてお考えもあると思いますので、5つ目の小中一貫教育についての後にご発言いただければと思います。

- ・まず1つ目、スライドの6、柏市が目指す子ども像についてご意見をお願いいたします。進め方として、1回目、2回目の審議会での質問に対して事務局が回答するスタイルは、基本的には避けたいと思っています。基本的にはご意見又は意見をするための質問を行うスタイルでお願いしたいと思います。しかしながら、事務局への質問が必要となる場合もあるかと思うので、その場でその場で対応させていただきます。

(寺本委員)

- ・ウェルビーイングの説明資料5ページを見ますと、文科省の考え方だと思いますが、右上の図、2つの要素からなる概念と読み取れます。1つは個人的な資質の側面と、もう1つは、関係性、他者ととともに、社会の枠組みのようなことが含まれていますので、ウェルビーイングの概念は、この両面を網羅しているものと思います。そうすると6ページの赤い枠線の柏市が目指す子ども像の中に協働的な要素を含めると、ウェルビーイングの概念の両方を網羅したようなキャッチフレーズとなって、バランスが良いと思います。

(平野委員)

- ・寺本先生のお話に同感です。概念や考え方については理解できませんが、もう少し具体的な文言にしたほうが良いと思います。自己肯定感の解釈については、人によって異なると思います。例えば、自己肯定感については、「自他ともに尊重する」とか、これでも抽象的ではありますが、「自他ともに」とすることで、先ほどの寺本先生のお話も含まれてくると思います。

(天笠会長)

- ・柏市が目指す子ども像とありますが、我孫子市が目指す子ども像だったり、野田市が目指す子ども像だったり、他市が目指している子ども像といっても差しさわりがないように見えてしまいます。皆様はそれをどう捉えますか。もっと具体的にしなくてはいけないと思いますし、提示された案に問題があるというわけでもないと思います。日々子どもたちと接している立場からみて、目指す子ども像をどのように受け止めていらっしゃるでしょうか。ご提言などあれば聞かせていただければと思います。

(藤崎委員)

- ・自己肯定感という言葉について、4月から現場復帰して感じるのは、エネルギーがなくなっている子どもが多いということです。毎年5万人ずつ不登校が増えているという文部科学省の調査があります。昔はエネルギーが溢れる子どもが多かったと思いますが、現在はエネルギーを失ってしまっている子どもが多いと思います。そういう意味で、自己肯定感を高めるというワードは、とても重要だと思います。なぜ子どもたちが自己肯定感を失ってしまうのかを考えますと、常に比較されているから、常に競争しているから、失敗を恐れている子どもたちが多いと感じます。そのような部分についても、文言に落とし込めればと思います。寺本先生、平野先生が指摘した他の人との関係性については、「多様性」「相手を認める」という内容も入れていく必要があると思います。

(天笠会長)

- ・今の子どもたちの姿を捉える着眼点として、エネルギーが失われているというご指摘でした。また、立場が違っていると感ずることも違うかもしれませんので、他にご意見はありますか。

(神田委員)

- ・自己肯定感の話が出ていますが，子どもに限らず大人についても自己肯定感について言われています。現代において，自己肯定感を高める必要がありますが，自己肯定感という言葉がわかりづらいため，わかりやすく具体的に考えられるような言葉に置き換えられると良いと思います。子どもが比較されるということについては，原因の1つとしてSNSの普及もあると考えています。自分が子どものときは，自分や家族しかいなかったため，他人と比較することはなかったと思います。今，他人と比較する機会が多くなったのは，SNSの普及ではないかと思います。自分の子どもが小5と中学生で，インスタグラムなどで現実ではないキラキラしたものを見て，人と比べて自分は劣っていると感じてしまうのではないかと思いました。その辺の部分について，時代が変わった点として考えないといけないと思います。このような社会においても，現実世界の人間同士の付き合いを深めるのが大事だと思います。私は柏市で生まれ育って，地域の人に助けられて，子育てができたことを実感しています。柏市は東京とは違い，人口がぎゅっつとつまっている地域のイメージがあります。地域と関わり，地域で子育てしていることから助けられていることを感じます。「自己肯定感を高めながら未来を切り拓く」の部分については，柏市に限らず全国の子どもに当てはまると思うので，もう少し柏市が目指す具体的なことを入れたほうが良いと思います。

(天笠会長)

- ・SNSにエネルギーが吸収されているというのが子どもたちの状況なのかもしれません。ここにいる人たちが昔，車などに興味を示していたとすれば，今の子どもはSNSかもしれません。時代の環境の変化をどのような形で取り入れるのか考える必要があるかもしれません。ちなみに神田委員，「4C」という意味は皆さん理解していますか。「4C」というのは，柏市では共通言語ですか。

(神田委員)

- ・「4C」と聞いてもわからないと思います。

(天笠会長)

- ・これから「4C」を柏市の皆さんに定着させるため，共通の意思として示していくのも1つだと思います。今の段階において，「4Cとは何？」というのが現状であると思います。狙いや意図を今

後示していくことが必要だと思います。

- ・寺本委員から柏市の目指す子ども像についてウェルビーイングの視点からもご意見をいただきましたが、ウェルビーイングについてご意見をお願いできればと思います。この言葉は、文部科学省が策定した教育振興基本計画の中のキーワードになっています。ウェルビーイングの日本語訳で一番近いのは健康だと思います。健康というと病気の有り無しというのが通常理解になりますが、社会的なつながりがあるとか、心の在り方が良い状態という意味における健康が比較的ウェルビーイングに近いかと思います。社会の在り方自体をウェルビーイングにしていくところでもあるし、子ども一人ひとりを育てる方向性のキーワードとして、ウェルビーイングを打ち出したということが、スライドの6になると思います。柏市の目指す子ども像でもそれを受け止めていると思いますが、子ども像を含めましてウェルビーイングについて、ご意見があればお願いいたします。

(平野委員)

- ・「4 C」の話になります。4つの「C」を皆さんからの意見を頂戴しながら、まとめ作成したのは私です。平成26年に当時の上司から柏市の学力学習調査において学力の部分は数値化できるが、学習状況について指標化しなければ、やっていることの成果や課題が見えてこないため、学習状況調査の指標を作成せよとの指令で検討したものです。学校関係者やそれ以外の人と様々な協議を重ね「4 C」ができました。学校の中では意識されて教育活動が行われていますが、市民には公にしてこなかったこともあるので、浸透しておらず今後の課題かと思います。

(古橋委員)

- ・ウェルビーイングや自己肯定感について、心身の健康、ごはんが食べられる、不安や悩みがない、それがベースにないと勉強もできないと思います。小さな成功体験の積み重ねで自己肯定感が育まれると思っています。自己肯定感を高めるためには、自分の存在価値・存在意義が少しずつ感じられる毎日が必要だと思います。

(神田委員)

- ・4つの「C」について、子どもたちに質問をしているのでしょうか。

(平野委員)

- ・ 柏市で行っている学力学習状況調査で、「4C」に関する設問が含まれていまして、それを数値化しています。

(神田委員)

- ・ その回答結果は親が見ることはできますか。

(事務局)

- ・ 生活意識調査については保護者に個別にはフィードバックをしていませんが、学校には学校全体のものと学年別のデータを管理職に送っており、次年度の学校運営方針に活用しております。

(神田委員)

- ・ 親や子にもフィードバックされると、子どもの得意なところ、不得意なところなど、内面がわかるので意義があるものを感じ、また、親としても知りたいと感じました。

(天笠会長)

- ・ それについては、回を重ねながら意見を交換していく、1つのテーマだと思いました。社会に開かれた教育課程づくりが国を挙げて進められている中で、学校と保護者の関係、学校と地域の関係づくりをどうしていくかを考える際に、今の話はつながるものだと思います。先生方だけで頑張るというものというより、保護者と地域と一体となって頑張る、という視点で柏市が目指す子ども像が設定されているのかということが検討の1つとしてあるかと思っています。加えて今の話は、スライド8の授業にもつながると思います。学習指導要領では授業をなんとかしていきたい、と考えている中で、主体的・対話的で深い学びがキーワードとして挙げられています。さらに10ページでは、個別最適な学習・協働的な学びを掲げて授業に取り組んでいるとしています。ただ、授業は学校の教室の中で行われているので、市民の目には触れづらいものでもあると思いますが、先ほどの説明にあった内容が現状になりますので、これについてご意見をお願いします。

(藤崎委員)

- ・ 一斉指導中心のこれまでの教育について、人口増加時期には効果的だったと思いますが、今はそのような時代ではなくなっています。スライド8で取り上げられている一人ひとりに目を向けた発達に寄り添った指導に特別支援教育の視点が入ってくると思いま

す。学校の中で、40人学級という括りの難しさ、学齢で区切ることが正しいのか、学習指導要領そのものを見直す必要があるのではないかと感じています。学習指導要領の枠組みの中で、例えば柏市独自の特例校のように新しい視点を持った教育課程を組んでいくことは必要だと感じます。

(少路委員)

- ・一人ひとりの子どもを主語にする学校教育ということで、学校では先生方はすごく工夫していただいていると感じています。それでも学校になじめない、学校へ行けない子どもがいて、そこに手が届いていないように感じます。そこをきちんとしないと、最終的には全体が良くなれないと思います。

(天笠会長)

- ・学校の立場からすれば、良い授業を提供しようとしていると思いますが、学校になじめない、学校へ行けない子どもが出てしまうことには、やりきれないところがあると思います。そういう子どもたちにどう対応していくかが問われている課題だと思いますし、それをテーマとして議論して、新しいアイデアを出していくことが私どもの使命と思っています。

(平野委員)

- ・先ほどの少路委員のご意見に関係してですが、子どもを離脱させないことが重要になると思います。不登校は学びからの離脱だと思います。離脱させないために何ができるのかと言いますと、より良い授業をする大前提として、学校の中に安心安全な居場所があることが重要だと思っています。私はそれに2年間注力しています。空間だけでなく、人も居場所ですので、担任と関係性を築くのは難しくても、校内に相談できる人がいる環境を作ることに力を入れてきました。まずは安心安全な学校の居場所を作ることが大前提で、その上での授業であると思います。

(天笠会長)

- ・今日の資料にICTがありませんが、現在1人1台端末があって、その効果を確かめる段階にきていると思います。先ほど指摘されたことについて、授業にどうICTが絡んでいるかなども大切な視点だと思います。その他に意見はありますか。

(阿部委員)



- ・ 目指す子ども像については個人としては賛成です。しかし、不登校、通信制の生徒も増えている状況です。勉強はしなくてはいけないから通信制の方に行っていると思います。学校という世界と、そこになじめない子どもたちが増えていることを考えますと、自己肯定感を高めることが解決につながるのかというのが悩ましいところです。子どもたち自身は、学習から離脱したいわけではないはずです。

(天笠会長)

- ・ 審議会の1つのテーマとして受け止めていきたいと思います。

(阿部委員)

- ・ 柏市の目指す子ども像はそこにフィットする言葉を探せば良いと思います。

(天笠会長)

- ・ 不登校の数が全国で30万人、柏市の不登校の子どもの数については、柏市の方はどれくらい認識されているのかということです。全国で30万人という数字は、広く教育関係者の中では周知されていますが、柏市の子どものも同じように重ねてみていかなければいけないと思います。
- ・ スライド11の学校規模について、第1回目でも説明された内容ですが、ご意見をいただければと思います。関係する内容として、スライド14の小中一貫教育もあると思います。この点もつなげて、ご意見をお願いできればと思います。

(少路委員)

- ・ 学校規模について、中規模がちょうどいいのかな、という感じはよくわかります。身近でも3クラスというのが、人間関係に配慮したクラス編成だと思います。私が関わっている学校の中には小さな学校と中規模の学校がありまして、小さな学校の保護者は、1学年1クラスしかないから中規模の学校に越境させてしまっ、その小さな学校はどんどん小さくなっています。本当は2クラスできるのに越境させてしまうことで小規模校化が加速してしまいます。なぜ、市では越境を認めてしまうのかと感じてしまいます。小規模校の先生はすごく頑張っています。

(天笠会長)

- ・ ご意見として伺います。

(入道委員)

- ・越境のことに関しては学校編成を考えると、どうなるかわかりませんが、越境の生徒だけで1クラスできる学校もあるのが現実です。そのことについて小規模校の先生は悩んでいる方もいらっしゃると思います。どこでも好きなのところに行って良いという考えにするのか、全てが大規模・中規模校にならなくても小規模校もあっても良いとの考えにするのか、いろいろなパターンで考えられるといいと思います。

(天笠会長)

- ・小さい学校が良いという保護者もあれば、人数がいたほうが良いという保護者もいらっしゃる。今後、このことについて再度意見を聞く時があると思います。30年後、40年後の地域の姿の在り方と絡んだ話になっていくものだと思いますので、短い期間での視点、中期的な視点、長期的な視点をあわせてこの問題に迫っていきたいと思います。小中一貫教育について意見はありますか。

(青木委員)

- ・スライド21のアンケート結果が、教育関係者から見たものだとすると、実際に小中一貫校に通っている保護者の立場から見た課題も知りたいです。全体的に良いことばかりのイメージが伝わっていますが、今後、小中一貫校に移行予定である旭東小学校では、様々な情報が飛び交っていることから、保護者から不安の声も聞いています。実際にあったクレームや対処法も示してもらったら不安が軽減されるのではないかと思います。

(天笠会長)

- ・スライド21の資料についても説明を加えてください。

(事務局)

- ・スライドの資料は、文部科学省が小中一貫校を導入している249の自治体にアンケートをとった結果となりまして、学校関係者からの回答になります。保護者の視点に関しましては、今後の視察先などで聞き取りをしていきたいと思います。

(天笠会長)

- ・全体を通して何かご意見があればお願いします。

(3) 柏市立小・中学校の教育環境に関するアンケートについて

## 【資料 5，資料 6】

(天笠会長)

- ・まず，実施済みの柏市立柏高等学校の教育についてのアンケートの感想，意見をお願いできればと思います。その後，今後，実施予定のアンケートについてのご意見をお願いしたいと思います。まず，高校のアンケート結果についてお願いします。

(遠藤委員)

- ・赴任して1年目ですが，今現在もこの傾向で間違いないと思います。学校に対する満足度は，スポーツ科が高めになっています。体育の先生が多く手厚いですし，先生同士の連携もできています。学校生活を送る上で，生徒が不安になることもあるかと思いますが，生徒について関われる教員がたくさんいると色々なアドバイスができますので，それが満足度につながっていると思います。スライド9に「自ら考える子」とありますが，今年のキーワードは「主体的」としています。生徒が苦手なことは主体性を持った取り組みなのかと思っています。学校生活，自分が主人公であるはずなのに，思考停止しているところがあるので，主体性という部分がまだまだ課題だと思っています。

(伊藤委員)

- ・目的のところでは，「より良い教育環境」と「教育の質の向上」を目指すとありました。前回の審議会の時に，このアンケートが議論の根拠になるという話がありましたので，アンケートは大事だと思っています。今日のテーマになっている柏市の目指す子ども像を引き出す，浮き彫りにするためのアンケートになっていくのか，それとも，教育環境の質の向上のためのアンケートなのか，具体的にしていく必要があると感じました。先ほど地域の中で子育てをしているといった柏市の良さの話がありましたが，柏市の学校の魅力について聞いても良いのではないかと思います。スケジュールのことですが，アンケートは4，5月に行うということでしたが，アンケートを実施するにあたって子ども・保護者・地域等へ丁寧な説明が必要と考えておりますが，どのように進めていく予定でしょうか。

(天笠会長)

- ・最初の高等学校についてのアンケート結果についてご説明いただきましたが、部活動は地域移行という教職員の働き方改革との関わりでテーマになっていることと、教育活動の一環としてのスポーツ・部活動の位置付けがテーマになっています。そういうことを踏まえると、高等学校の現状についての貴重なデータでありまして、いろんな観点から検討していくことができ、機会がありましたら、意見交換させていただきたいです。
- ・続きまして、伊藤委員からのご意見がありました。伊藤委員はどうしたら良いとお考えですか。

(伊藤委員)

- ・教職員の設問において、施設に関することが多いと思いました。そもそも教職員であれば、授業の中で大切にしていることだったり、学校の良さを聞いても良いのではないかと思いました。同じように子どもたちや、保護者に対してもそれぞれの学校の良さであるとか、特色などを聞いても良いのではないかと思いました。

(天笠会長)

- ・1つ目の議題で議論した柏市の目指す子ども像について、今後本審議会で提言、議論を深めていくことから、本アンケートの項目内容で子ども像を示唆する又は子ども像についての知見を得られるような回答が収集できるかという観点からの意見もよろしいかと思えます。

(神田委員)

- ・子どもに対するアンケートについてですが、私の子どもが学校に求めていることは、校庭の広さです。アンケートをみると、保護者のアンケートには施設に関する項目がありますが、子どものアンケートには、施設に関する具体的な項目がありません。例えば、男女兼用のトイレの整備など、施設に関する項目が入っていると良いと思いました。また、学校外についての質問があると良いと思います。学校によって地域との関わりが違うと思いますが、学校以外で誰かに助けってもらったこと、頼りになることがありますかなどの項目があれば良いと思いました。

(坂本委員)

- ・子どものアンケートについてですが、問題数が少ないと感じました。内容を細かくするとか、記述式でどんな授業が楽しいか、柏

市の目指す子ども像に生かせるようにどんな人間になりたいかなど、質問の内容を変えて、自由記述欄を増やしても良いのではないかと思います。

(天笠会長)

- ・私たちの立場としてもいろいろなアイデアを出すことが大切だと思います。他にいかがでしょうか。全体を通してお気づきの点はありますか。それでは、今日はここまでとさせていただきたいと思います。
- ・「柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針」については、皆様からの意見を含めて、第4回以降の審議会も引き続き審議していきたいと思います。「未来につなぐ魅力ある学校づくり」ということで、本日は魅力的な中身の深いテーマでありました。子どもたちのエネルギーが吸い取られているというご発言がありました。これは子どもたちだけのことなのか、私たち大人もエネルギーが衰退しているように感じます。「未来につなぐ魅力ある学校づくり」で、どのような形で子どもにエネルギーを送り込んでいけるかというところかと思いますので、私たちとしてできる限りそのエネルギーを注げるような審議会にこの先もしていきたいと思います。以上で、第3回審議会を終了します。

## 6 今後のスケジュールについて

(事務局)

- ・第4回目の審議会ですが、年度の切り替えのタイミングとなりますので、4月以降の日時につきましては、会長と調整の上、決定したいと思います。予定としては5月の下旬で考えています。

## 7 傍聴者

6名

## 8 配付資料

- (1) 次第 令和5年度第3回柏市教育政策審議会
- (2) 【資料1】 柏市教育政策審議会委員名簿
- (3) 【資料2】 席次表
- (4) 【資料3】 「柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針」について

- (1) 令和 5 年度第 1 回，第 2 回審議会の振り返り
- (5) 【資料 4】 (2) 市立学校を取り巻く現状及び課題への対応の方向性について
- (6) 【資料 5】 (3) 柏市立小・中学校の教育環境に関するアンケートについて
- (7) 【資料 6】 (3) 【対象者別】 アンケート案